

コラム

《腰折れ文》九、

渡邊澄子（会員）

大事な問題が多すぎて選択に迷う。しかも心躍る楽しい話題など皆無に等しく、血圧があがるほど怒りの種ばかりだ。世界的名医の健康診断を受けていて、認知症の心配なしのお墨付きを得て安心していたが血圧の急上昇で脳溢血死しそうだ。

まず小さい問題（決して小さくはない）から。区立なので公立の泰明小学校が一式八万円以上もするイタリアの高級ブランド「アルマーニ」製の制服導入を決めたという。小学生時代は成長が著しい。六年生まで何度か買い換えなければならないだろう。貧乏人は入学すんなんてことか、在学中の貧乏人は買い換え出来なければ出て行って事か、私立でもないのに、などの

怒りの声が寄せられたらしいが、校長は変えるつもりはないという。教育の機会均等を保障した二六条の責務違反ではないか。

政府もだ。生活保護世帯の子どもは高卒後は働くことを原則にしている。困窮家庭の子の七割が塾や習い事、携帯などを断念させられているという調査があり、睡眠・食費を削ってアルバイトし、大学に進んだらその世帯への保護費は減額されるという。生活保護世帯の消費水準を保護を受けていない（受けなためにどれほどの苦難を強いられるか）所得最下層の人たちより低くする制度に決めたという。決めた張本人はその額でせめて三か月でも生活してみればいい。抑えがたい勉強意欲

から大学に進み、バイトと奨学金で卒業して就職したが三十八歳でがん死した息子の奨学金返済残額と利息の一二三万円に死後の延滞金一四二万円を加算した額の支払いを息子死後八年に請求され、年金暮らしで貯金のない親が毎月二万円振り込んで返しているという話を聞いた。この種の例は枚挙に暇がないらしい。何と言う残酷さ。

大飯原発を抱える町の幹部職員二十人の二泊三日の青森県内の原子力施設研修を公費と関電が負担、日当まで出ているが半分は観光だ。経済産業省は広報・調査費名目の今年の交付金は八億三千万円という。福島被害者が七万五千人もいるというのに、ブラックボックスの内閣官房機密費の膨大さ、五兆一九一億円と過去最大の防衛費。巨額の借金を国民におしつけて困窮者の保護費は減額しながらバラ撒きで感謝されて悦に入る画面の安倍氏を睨んでも無力。今年一

月、都心でミサイル想定避難訓練が行われた。そんな必要はないのに。恐怖を煽って防衛費激増、自衛隊の軍隊として固定化への世論作りのためが見え見えだ。血圧が上がる。

米軍ヘリ他による沖縄（に限らず）への事故やトラブル頻発は六〇年に協定された日米地位協定が悲惨な状況を生み出す元兇だ。政府は廃棄・改訂すべきだろう。

「前川前次官の授業 報告要求」には震えた。自民党議員が調査を要請したというが、いわば正義の士とも言える氏の中学校での講演の詳細報告命令に、日本近代文学研究者の私は戦時下の治安維持法が咄嗟に思い起こされ、共謀罪にマッチした「事件」に鳥肌がたった。この国の行く手が怖い。森友問題の帰趨を見守りたい。